なって将来につながる。そして、それをフォローするのが執行部の役目だ。

答弁　その通りだ。ちょっと上のレベルの仕事をしなければ成長はない。「人を育てる」しくみづくりをこれからもやっていく。

「第29回国民文化祭・あきた2014」について

質問　現時点での市一体となった盛り上がりについての市長の感触と、これからの市民に対する周知方法を伺う。

答弁　広報・啓発活動により、認知度は上がっているがまだまだと感じる。今以上に啓発に取り組んでいかなければならない。市内8事業の詳細が決定したら、ポスター、チラシを作成し、また市報やコミュニティFMで周知し、本番に向けての機運の上昇を図る。

質問　周知はがんばっているが、国民文化祭そのものに「なじみ」がない。ステージイベントの本番に向けてがんばっている市民の方々に報いるためにも、あらゆる媒体を使って、しつこいくらいに周知を行ってほしい。

答弁　市民が文化に触れることで「人が集まる」取り組みをしてこその成果だ。本物の芸能に関心を持ち、「行ってみようかな」と思うしくみをつくりたい。

質問　横手市を訪れる方々に「お金を落として」いただく具体策を伺う。

答弁　国民文化祭の参加者に対しては横手コンベンション協会を通じて宿泊と弁当の斡旋をする。また、交流会を開催し、飲食業界の活性化につなげたい。一方、来訪客には各会場で物産販売などを行う他、スタンプラリーを実施し、パンフレットやガイドマップを配布していく。

質問　横手市を訪れる前の段階での観光PRも必要ではないか。そうしなければ、角館や田沢湖に行かれる可能性もある。

答弁　それは大きなポイントだ。横手の観光資源において幅広い角度から対応しなければならない。充分考慮していきたい。

質問　市長は常日頃から「市職員は、全員営業マンだ」と言っている。国民文化祭はその「おもてなし」の本領を発揮する絶好の場だ。

答弁　市職員が携わる事業に「想いを寄せる」ことが大前提になってくると思う。そうすれば来訪客にも伝わる。その意識を持たせたい。

質問　国民文化祭を契機にどうやって横手市の文化振興を図っていくのか。

答弁　8事業をはじめ、これまで受け継がれてきた地域に根付いた伝統文化を守り育て、次世代に引き継ぎ、発展させることが大切だ。食文化や増田の蔵のまちなみ等を全国に発信し、また各文化団体と連携を深めていきたい。

質問　例えば、まんが美術館やヨサコイキッズ祭りはその全国拠点になり得る可能性がある。そうしたものの今後を真剣に考えていってもらいたい。

答弁　これまでやってきたことを大事にしながら、どうあるべきかについて取り組んで参りたい。

▲国民文化祭に向けての周知活動▶